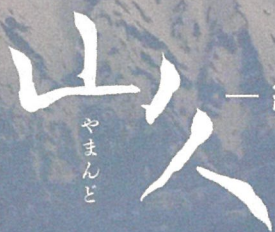




『16ミリ試写室』は1977年に発足。「どこでも素敵な映画館」を合言葉に、県や市の視聴覚ライブラリー所有の16ミリフィルムや映写機を活用し、視聴覚教育活動を行っている女性のNPO団体です。横須賀市内の図書館やコミセンなどの社会教育施設、老人ホーム、障がい者施設、地域の集会所などで年間約70回の映画会を開催しています。さらに、「心に響くメッセージを廉価で届ける」を目的に、ドキュメンタリー映画を中心に有料上映会も開催しています。2013年春、地域交流支援活動奉仕団体として緑章を受章。

<https://y16mri.com>



— 縄文の響きが木霊する —

山を守るとはということなのか？ 山を守り続けられるのは誰なのか？

「山には神が宿る」と語る菅家藤一さんの行動すべてに意味があった



菅家藤一さんプロフィール

1953年、福島県三島町間方地区に生まれる。子どもの頃から両親と一緒に山に入り、山菜や茸の採取や狩猟を行ってきた。優れた編み組細工の作り手でもある。

原村政樹監督からのメッセージ

今から8年前、奥会津の山深い集落を訪ね歩いていた時、まず目に入ったのはかつての日本の伝統的な風景でした。

屋根はトタンに葺き替えられているものの茅葺屋根の家を壊さず暮らしていたのです。

そこで山の自然に詳しい菅家藤一さんを訪ね、お話を聞くことにしました。菅家さんは山の自然を壊さず、山の恵みに生かされて暮らしていました。その生き方に深い感動を覚え、多くの人に伝えたいとこの映画を創ったのです。

原村 政樹（はらむら まさき） ドキュメンタリー映画監督



1957年、千葉県生まれ。上智大学卒業後、フリーの助監督としていくつかの制作会社で映像制作に携わった後、1988年、桜映画社に入社。同年、アジアの熱帯雨林破壊問題をテーマにした短編映画「開発と環境」で監督デビュー。以後、記録映画やテレビドキュメンタリーを多数手掛ける。主な作品に『海女のリャンさん』（キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位、2004）、『いのち耕す人々』（2006、同第4位）、『里山っ子たち』（同第3位、2008）、『天に栄える村』（同第5位、2012）、ETV特集「原発事故に立ち向かうコメ農家」（農業ジャーナリスト賞）など。2015年、『無音の叫び声』制作を機に、フリーの監督として独立。初の著書『無音の叫び声農民詩人・木村迪夫は語る』（農文協、2015）とあわせて農業ジャーナリスト賞をW受賞。以後は自ら撮影も務め『武蔵野』（2018）、『お百姓さんになりたい』（2019）、『タネは誰のもの』（2020）と精力的に制作活動を行う。2021年「食の安全を守る人々」、2022年「若者は山里をめざす」（農業ジャーナリスト賞受賞）、2024年「山里は持続可能な世界だった」、他。



連絡先 アグリシネマ（鈴木方）

〒350-1133 埼玉県川越市砂846-3 鈴木敏夫

Tel./Fax. 049-242-4811 E-mail: agri_cinema@mbr.nifty.com

アグリシネマ

